

徳大歯学部口腔保健学科

2012年度の社会福祉士国家試験に徳島大学歯学部口腔（こうくう）保健学科の15人が合格し、合格率は93・8%と受験者数10人以上の大学、短大、専門学校218校中1位と

なった。同学科では10年度から学生が自発的に資格取得に取り組み、大学側も特別講義などで支援。その成果が現れ、全国の平均合格率18・8%を大きく上回った。

12年度の社会福祉士国家試験

合格率93・8% 全国1位



難関「励まし合い突破」

社会福祉士の国家試験で合格率全国1位となった徳島大歯学部口腔保健学科生―同大蔵本キャンパス

口腔保健学科は歯科衛生士を養成するため、07年に開設。社会福祉士の取得は必須ではないが、超高齢化社会では歯科だけでなく、福祉の知識も持った人のニーズが高いとして、10年度から4年生の大半が受験している。学生は講義の合間を縫って毎日7〜9時間勉強し、大学も30時間にわたる特別講義で指導した。

が多かったため合格ラインが例年より10点ほど下がり、合格率も10年度の26・3%、11年度の28・1%から大きく下がった。

口腔保健学科は10年度に4年生15人中14人が受験し、11人が合格。11年度は16人全員が受けて13人が合格し、合格率81・3%は全国3位だった。

口腔保健学科は10年度に4年生15人中14人が受験し、11人が合格。11年度は16人全員が受けて13人が合格し、合格率81・3%は全国3位だった。

社会福祉士は福祉に関する高度な専門知識・技術を生かして相談援助に当たる国家資格で、1月1日試験は口腔保健学科の4年生16人全員が受験。白山靖彦教授によると、12年度試験は難問だった。4月から小松島市の歯科医院で歯科衛生士として勤務する徳島市南佐古七番町の西岡万里奈さん(22)は「予想外の出題もあって難しかったが、合格してひと安心。チームワークがよい学年だったので、励まし合って乗り越えられた」と振り返った。(大塚康代)